

おかし、大沢の大杉神社の道端に、ぽつんと石のお地蔵さんが立っ  
ていてな。

朝になるといろいろな人が、いろんな格好をして、次から次へと通  
るんだよ。中にはお菓子などを、お地蔵さんに供えて長い間お祈り  
をするおばあさんなどがいて、お地蔵さんは、昼の間は退屈を  
しないで、立っ  
ていられたんだと。

でもな、日がくれてあたりが暗くなり、誰も通らなくなっ  
てしま  
うと、お地蔵さんはじっと立っ  
ているのがつまらなくなっ  
てしま  
うんだと。

そうすると、お話好きなお地蔵さんは、重い足を引きずりな  
がら、近くの弁天さんを訪ねた  
と。そして、その日に聞いたこと、見たことを楽しく話をして、  
明け方近くになると、何事もなかったように、もとの道端に立っ  
ていたんだよ。

ところが、風もねえ静かな夜更け、お地蔵さんがいつものよ  
うにおしゃべりに行こうとして、重い足を引きずりな  
がら歩  
いていた。その足音は、重くゆっくりした地響きと

なっ  
て、暗闇の中にひろがっ  
ていっ  
たんだと。

ちようどその頃、夜道を歩  
いてい  
たお侍さむらいさんのからだにも、ズシン、ズシンという響  
きが伝わっ  
てきたと。お侍さんは、今まで一度も聞いたことがない音が、だ  
んだん近  
づいてくるように聞こえた。恐る恐る近寄っ  
て見ると、大きな怪物が目を光らせ、大きな手を振り上  
げて迫っ  
てきた。今にもつぶされるのではないかと思っ  
たお侍さんは、素早く腰の刀を抜き、夢中で怪物に切りつ  
けたと。

そしたら、カチンという音と同時に、腕にピリッとした痛みを感  
じ、お侍は氣を失い、その場に倒れてしまっ  
た  
と。

朝になっ  
て、畑仕事に急ぐ村人が、お地蔵さんのそばに倒れてい  
るお侍さんを見つ  
け、「このお侍さん、なんでこんな所に寝てい  
るんだべ」

と言  
いながら、耳元で大きな声で、

「お侍さん、お侍さん」

と、どなると、お侍さんは目を覚ま  
したと。すると、静かに立ち上がり、自分の腕をさ  
すりな  
がら、刃のこぼれた刀を拾い上げ、お地蔵さんの背中の刀傷を見つ  
めて、何かぶつぶつ言  
いながら、きまり悪そうに立ち去っ  
た  
と。

それから、この刀傷を持ったお地藏さんを、誰言うとなしに「夜歩き地藏さん」と言うようになったんだと。そして、村の人たちは、弁天様の近くに、新しい祠を建てて、お祀りしたと。

とてもおしゃべり好きなお地藏さんは、今でも、皆さんがぐっすり眠った、真夜中になると、每晚弁天様の所へおしゃべりに通っているかも知んねえな。

おしまい

からすやまの民話 第一集より